

1 月度座談会

諸經と法華經と難易の事

* * 地区

背景と大意

- 弘安3年 59才 在・身延
- 対告衆：富木常忍（下総・千葉県）
- 別名「難信難解法門」
- 常忍の質問に「難信難解」を教示
- 法華経は難信難解・成仏の法
- 「仏法は体、世法は影」である
- 体が曲がり混乱。体を正すべし

難信難解と易信易解

法華經以外
易信易解・随他意



衆生の
機根による

法華經
難信難解・随自意



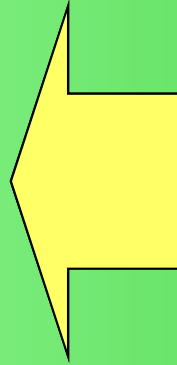
一切衆生
成仏の法

随自意の法華經こそ
最高の成仏の法

仏法顛倒

鎌倉時代

飢饉・疫病
蒙古・内乱



念仏・真言
律宗・禅宗
爾前権教

- 社会が混乱し、人々が恐怖
- 日本の**仏法が顛倒**している
- 不幸災厄の根本原因は**爾前権教**

仏法と世法

仏法は**体**のごとし
世間は**影**のごとし



体曲れば
影ななめなり

- 幸福**社会**の根本は**正法**の確立
- 幸福な**個人**生活の根本は**信心**

仏法即社会・信心即生活は
社会変革と人間革命の原理

指導より

- 社会を根底から支える思想が確立しなければ、世の中は規範を失う
- 「信心」と「生活」、「仏法」と「社会」とは不二の関係である
- 信心即生活とは、一切を信心の挑戦と捉えること。信心の一念の確立。

正法の確立で、全員が
地域・社会の勝利者に